

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	じじっかファミリー事業
資金分配団体名:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	一般社団法人umau.
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	ひとり親世帯、生活保護受給世帯、身体・精神・知的障がいのある人及びその家族、コロナ禍で生活が困窮になった世帯

Version 3.2

日付: 2022年3月8日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>コロナ禍におけるひとり親世帯を中心とした更なる困窮状態を支え合う「じじっかファミリープログラム」の構築。貧困の原因となる「低所得」「経験不足」「相談できる関係性の無さ」「情報量の少なさ」「学ぶ機械の少なさ」など、生活のあらゆる「余裕の無さ」をプログラムを組み、各家庭の生活に組み込むことで、少しでも生きづらさの解消となり、悪循環な暮らしの紐を解いていけるような機会の創出を包括的にを行うことを目的とし推進してきた。プログラムの内容は、生活に体験と関係性を「プラス」させていく【じじっかライフ(+)]では、無料で食べれる週末の親子食堂を展開、更に親子共に習い事や休日をみんなで過ごせる場を毎週開放してきた。家計を楽に節約「マイナス」していく【じじっかギフト(-)]では、フードバンクを始めとする寄付食材や家電、衣類や文房具をいただき必要な方々に配布する窓口の設置を推進。自分の持っている経験やスキルを忙しい毎日にも活かし更にお小遣い稼ぎができるように生活に力を掛け合わせ「カケル」していく【じじっかショップ(x)]。働き方を考えると共に、副業としての稼ぎへととなり、働く楽しさを実感しながらみんなで責任と収入を分散「ワル」させていく【じじっかのべんり屋(ワル)]の4つのテーマでカテゴリーをつくり、相互扶助の推進にもなるメニューをみんなで創り使いあう暮らしの実現へと繋げている。当休眠預金のスタートと同時（2021年7月）からスタートさせていただき、現在プログラムの土台づくりが完成した。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>目標にしていた会員数には達しなかったものの、プログラムの4カテゴリー内の実績としては予想を超えたものになった。志を持って「貧困」という経済的だけではない根本原因を追求しながら、様々な環境下の世帯と接していく中で、今の地域社会の制度だけでは足りないものを、私たちに整えてきた。今後の課題としては、ひとりでも多くの方がこのプログラムを使っていたら状況にするために「わかりやすい」「定期的な」「心に届く」発信をしっかりと行っていくこと。更に4つのカテゴリーを進めていくための仕組みづくりや人材いくせいなどにも力を入れていくこと。そして、法人としてひとり立ちできるように自主事業の展開にも力を入れていきたい。運営する私達が当事者ということもあり、スタッフ自体の経験も掘り下げながら、困窮世帯と位置付けられている人たちの本当の困り事や課題解決の糸口をこれからも日頃からの関わりを持つことで信頼関係を築きながら、貧困脱出していけるためのプログラムを模索・構築していきたい。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ひとり親	食料関連の不足	ひとり親を中心としたコロナ禍において更に困窮状態になっている家庭への週末の夕飯の配達と提供により食費が減少する。	親子食堂の回数と提供世帯数	目標回数70回 目標世帯数350世帯	実施回数78回 世帯数1518世帯 (延べ4863名)	毎週定期的に開催し続けることで各家庭に周知し生活の一部として定着できたと思う。月に3万円の食費が軽減したという報告も受けた。食費と共に、家事の時間などの負担も軽減していくとみられる。
生活困窮者	事業実施上の困難	困窮している世帯に寄付として集まった食材や衣類などを配布し、生活の安定が保たれるようになること	食料をお渡しした世帯数と寄付支援をしていた回数	お渡し世帯数200世帯 いただく回数50回	お渡し世帯数82世帯 いただいた回数72回	お渡しした回数を11月から記載していたので実質はもっとお渡しできている。寄付をもらった際にもっと配布できるようアプローチを今後改善していく。野菜などの生物を早めに配布していく為の手立てを作る。
ひとり親	その他	子育て中にでも、自分のスキルを活かし経験と+αの収入を得る仕組みをつくり、起業という将来の希望や生き甲斐へとつなげていける仕組みを作ること	登録者数 依頼件数	登録者数10名 依頼件数ひとり1件以上	登録者数7名 依頼件数2回	事業実施に遅れがあり12月からのスタートになったこと。更に周知方法が未完成であること。今後力を強めていく。忙しい毎日自分のスキルを活かす場があることはシングルマザーにとっての意欲につながることは間違いない。
生活困窮者	就業困難	空いている時間に、みんなで出来る仕事を行い、小さな収入を得る仕組みを作ること	依頼件数 受託者数 総売上	依頼件数5件 受託者数5名 総売上20万円	依頼件数10件 受託者数18名 総売上約91万円	起業にとっての、「少し人手が足りない」に対して、ひとりが請け負うのではなくチームをつくり働くスタイルを作れたことが、多く受託できた人数に反映した。相互扶助就労という考え方で今後も推進していく。
コロナで影響を受ける従事者	居場所の不足	じじっかファミリープログラムの会員となり、共に安心をつくること	月族会員数 星族会員数	月族会員50名 星族会員100名	月族会員12名 星族会員82名	所属している方々への全周知不足。誰でも説明できるツールの作成が必要。当事業で土台ができたことにより、来年度に広めていき、プログラムを生活に取り入れることで困窮状態が少しでも解消するように進めていく。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	現在実施中のプログラムの更なる推進で、経済的困窮をはじめ、孤立、経験や学力の不足、相談できる仲間づくり、就業問題、生き甲斐、家庭内課題の解消など包括的にサポートし合える仕組みを筑後地域に広げていく。
考察等	一番困窮しているであろうひとり親同士が、生活で大変なこと、困っていること、あったらいいな！と思うことを日頃から話し合い、プログラムのメニューとして取り入れているため、制度やサービスでは見逃してしまう生活の困りごとに着手できる。更に「貧困」を経済的だけではないことを証明していくことの重要性もこの一年で実感した。数値化できなかった貧困の根本原因を、来期数値化していく検証を行うことをプログラム推進と共につくることで、地域に必要な暮らしのプログラムであることを示していきたい。

V. 活動

活動	進捗	概要
じじっかライフ（プラス）	計画通り	親子食堂や体験学習の実施は計画以上に実施でき、参加者も多かった。
じじっかギフト（マイナス）	ほぼ計画通り	寄付の窓口として様々な方にご協力してもらえりる流れをつくれた。
じじっかショップ（カケル）	遅延あり	スタート期が遅れたため、計画通りには進まなかったが改善できる視点などを仕組みとして取り入れることが
じじっかのべんり屋（ワル）	計画通り	想像以上の依頼数で、ひとり親世帯の家計にお役に立つことができた。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	じじっかのべんり屋において、人材不足を課題とする企業と、雇用せずにチームとなり対応していく形が意外とマッチするということが分かった。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	コロナ禍において更に緊迫したような困窮状態も、ひとり親家庭にとってはコロナ前も変わらずに困窮状態だったと考えられる。その点において、今後コロナが終息したとしても、変わらない現状は存在する。そのどうしてもひとりの力では解決できなくなっている状態を、相互扶助の関係性を保ちつつ各家庭の課題解決策へと結びつけるために、プラスやマイナスのメニューを活用した節約や、カケルやワルを活用した家計の循環を生み出すと共に根本原因となる経験不足や価値観の方向性、コミュニケーション能力の向上を同時平行で補い合っている変化が見込まれる。活用方法などの周知をわかりやすく提示していくことで、今後ひとり親家庭の生活改善へと確実につなぎ合わせていきたい。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
オンライン公民館	防災支援施設くるめウス、市民活動サポートセンターみんくる、久留米大学や久留米工業大学の教授など久留米地域における団体などと月に1回オンライン公民館というオンラインメディアを推進。子育て支援団体と協働し終息気味であることも会をオンラインで実施など
ポレポレ祭り協働実行委員会	年に1度開催されている社会福祉法人主催の地域イベントにて、オンライン会場の一つとして、東北大震災で被災された方々を10名ほどお呼びしておもてなし企画の実施。防災、福祉、まちづくり、教育機関の方々と協働した。
ゼロプレイスジャパン	埼玉県と福岡県の2県で居場所づくりを行う民間同士で始まったプロジェクトに主催側として開催。現在全国7市の参加者と共に、全国の居場所づくりコミュニティを月に1回オンラインで実施。
地域福祉NEO	久留米市の地域福祉課の事業にて、重層的支援のプロジェクトに参加。多方面の参加者と繋がり、共生社会に向けての言語化や実施企画などに参画している。
様々な講演会に登壇	大学の授業、障害者基幹支援センター、大牟田市主催講演会、小郡市まちづくり企画、他約20回の講演会にて登壇し、多様な関わりが増えた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	6,478,000	6,218,478	96.0%
	管理的経費	904,000	894,004	98.9%
合計		7,382,000	7,112,482	96.3%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	NHK3回、RKB毎日放送株式会社1回、TNC株式会社テレビ西日本1回、読売新聞2回、西日本新聞9回、共同通信1回、久留米市障害者基幹支援センター媒体1回、久留米市地域福祉課媒体1回、女性自身1回など
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	ホームページ、パンフレット（300部）、事業説明書（500部）
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	パンフレットに掲載、購入パソコンに貼り付け、プログラムサイトに貼り付け等
4.報告書等	事業報告

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類（指針・ガイドライン等を含む）	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	特記事項なし
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	特記事項なし
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	特記事項なし
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	特記事項なし
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	ガバナンス・コンプライアンスを強化するため、規程の見直しを適宜行っている。
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	外部監査	内部監査にて実施。
	内部監査	
	実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	